

## 自然環境保護・保全事業

セブン-イレブンみどりの基金は、日本の四季折々の美しい自然や貴重な生態系を次世代に受け継いでいくために、さまざまな団体とパートナーシップを組み、自然環境保護・保全活動を推進しています。

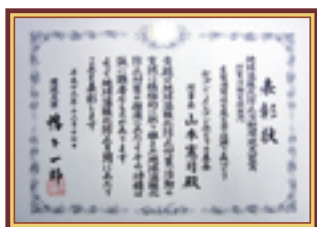
### ◆ 支笏湖周辺台風災害・復興の森づくり

北海道森林管理局・石狩森林管理署と3年間の協定を結び、2004年に台風被害にあった支笏湖周辺の森林再生のために、「支笏湖周辺台風災害・復興の森づくり」に取り組んでいます。この復興の森づくりは、市民が「森の育て親」になって100haの大地に10万本の植樹を行い、植樹後も下草刈りなどの保育に取り組んでいくものです。

2007年12月にはこの活動が認められ、「平成19年度地球温暖化防止活動環境大臣表彰」を受賞しました。2007年度は、春植樹に2,195人、下草刈りに558人、同窓会と交流会に285人が参加しました。



2007年春植樹



表彰状



授賞式にて鶴下大臣より表彰状の授与



植樹風景

### ◆ 富士山地域環境保全活動

富士山地域の環境問題を解決するために、NPO法人富士山クラブの活動を支援しています。今年度の清掃活動は71回、延べ6,353人が参加し、約64tのごみを回収しました。10月には、日本全国の大学、子ども会、NPO、NGO、企業、団体などに協力を呼びかけて行った「ふるさと清掃運動会」では、全店舗に清掃参加者募集のポスターを掲出し協力しました。また、2008年2月23日の「富士山の日フォーラム」の開催も支援しました。



富士山清掃のごみリレー



「ふるさと清掃運動会」に協力

### ◆ 四万十川に飛来するツルの越冬地づくり

高知県四万十市の四万十川流域は、ナベヅルなどのツル類の飛来地で、2007年度には約130羽が確認されています。世界のナベヅル・マナヅル等の約9割は鹿児島県出水市で越冬していますが、伝染病等が流行った場合には絶滅の危機に襲われる危険があり、越冬地分散化を図る必要があります。

みどりの基金は、四万十つるの里づくりの会と協定を結び、四万十川流域でもツル類が越冬できるように休耕田を利用したエサ場作りを行うと共に、ツル類の生態調査や研究を行っていきます。



四万十川流域に飛来するナベヅル

### ◆ 九重ふるさと自然学校

2007年4月に「人と自然、自然環境と地域社会の共存・共栄を自然から学ぶ」を基本理念としたセブン-イレブンみどりの基金の自然学校が大分県玖珠郡九重町に開校しました。自然学校は、当基金の自然と生態系の保護・保全活動の拠点として、阿蘇くじゅうの自然と里地里山の自然・生態系の保護・保全活動を行っていきます。また、他の自然保護団体とのネットワークづくりなども進めていきます。



2007年4月19日大分県庁において、九重町とセブン-イレブンみどりの基金の間で協定を結ぶ調印式が行われました。



鳥の観察会



伝統炭焼き



2007年4月22日 開校式

### ◆ 日光杉並木保護活動

日光杉並木保護財団と一緒に約12,600本の日光杉並木の保護活動を行っています。2007年8月には、日光杉並木保護のための樹勢回復事業に対する8年間の助成に対し、(財)日光杉並木保護財団より感謝状をいただきました。



感謝状



樹齢380年を超える日光杉並木街道